

68 Zuio-in Temple Period 1956 Shiga Pref. Otsu City Tel: 0775-78-0232

本庭は比叡山の山田恵諦大僧正と重森三玲先生の出会いによるものである。昭和9年の大風水害の折日吉川の上流から大きな岩が転がり落ちてきた。大僧正はこの石を何とか庭石にと思っていたが、何せ大きな巖ゆえ動かすことが出来なかった。その後歳月が20年余り経った昭和31年に重森先生が作庭することになった。テーマは、源信僧都が日相観により観得した「阿弥陀聖衆25菩薩来迎図」とした。この構想を大僧正は大変喜ばれたそうである。



苔地と軒下の延段は雲紋を象徴し、菩薩が雲に乗って来迎していることを表した

庭は中央に阿弥陀如来が鎮座し、左右には勢至菩薩と観音菩薩の集団が17石ずつ組まれている。手前にやや大きな両菩薩があることで、景色に奥行きが出るとともに、廊下を移動すると立体造形が連続的に変化する。

このようなテーマを設定して、そのテーマにピッタリの造形を作ることは、庭園は単に自然界を写すのではなく、作者の意思を抽象化することである。



躍動する石組み：苔地の輪郭線は雲海を表しているが、さらに苔地に起伏を持たせ雲であることを造形している。



庭を見ながら廊下を移動すると、背後の石組みが動いて見える（手前にある勢至、観音菩薩による錯覚効果）



軒下の延段や聖衆二十五菩薩観音が雲に乗って来迎する物語を視覚化した造形



諸菩薩の自由な形



同上